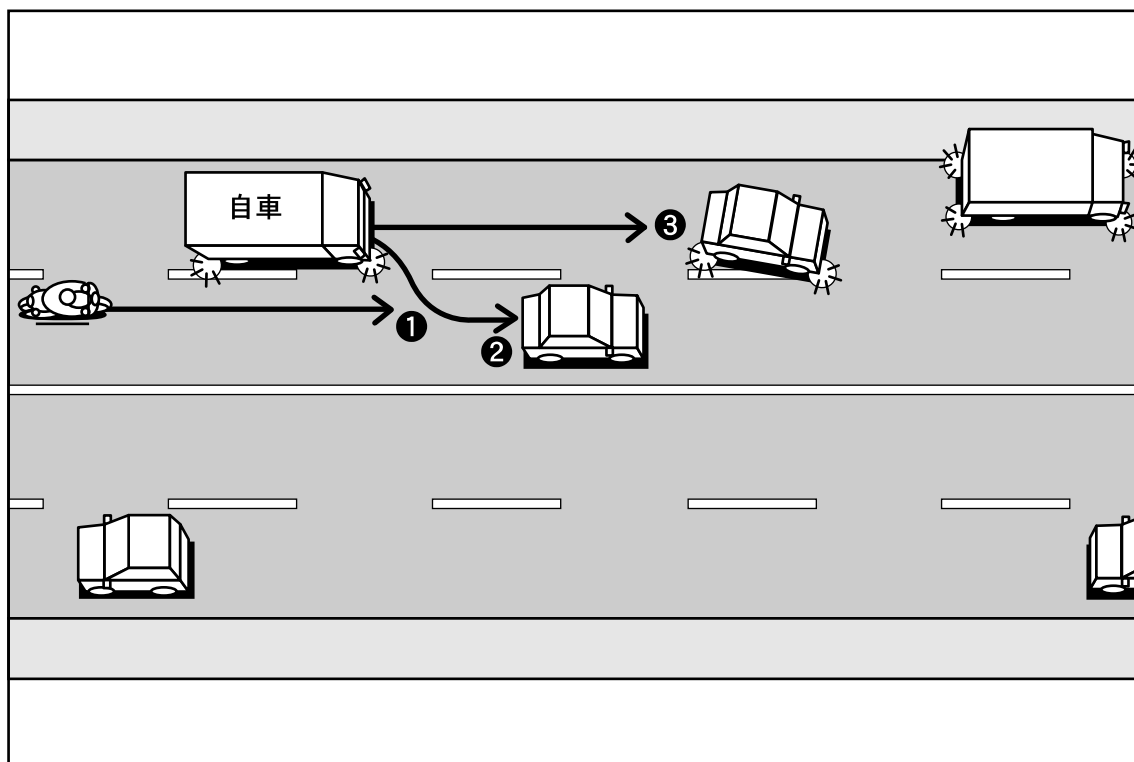


危険予知トレーニングシート 解説

【トラック】

- 片側2車線の道路を走行
- 片側1車線の道路を走行
- 住宅街の走行
- 交差点の右折
- 交差点の左折

〔トラック 1〕 片側 2 車線の道路を走行



1. 主な危険要因の例

- ① 後方の状況を確認せずに右側に進路変更をすると、後続の二輪車と接触する危険がある。
- ② 前車が進路変更しようとしているため、右前方の車が減速すると、自車が進路変更した際に追突する危険がある。
- ③ 進路変更するために減速や停止をした前車に気付くのが遅れると、前車に追突する危険がある。

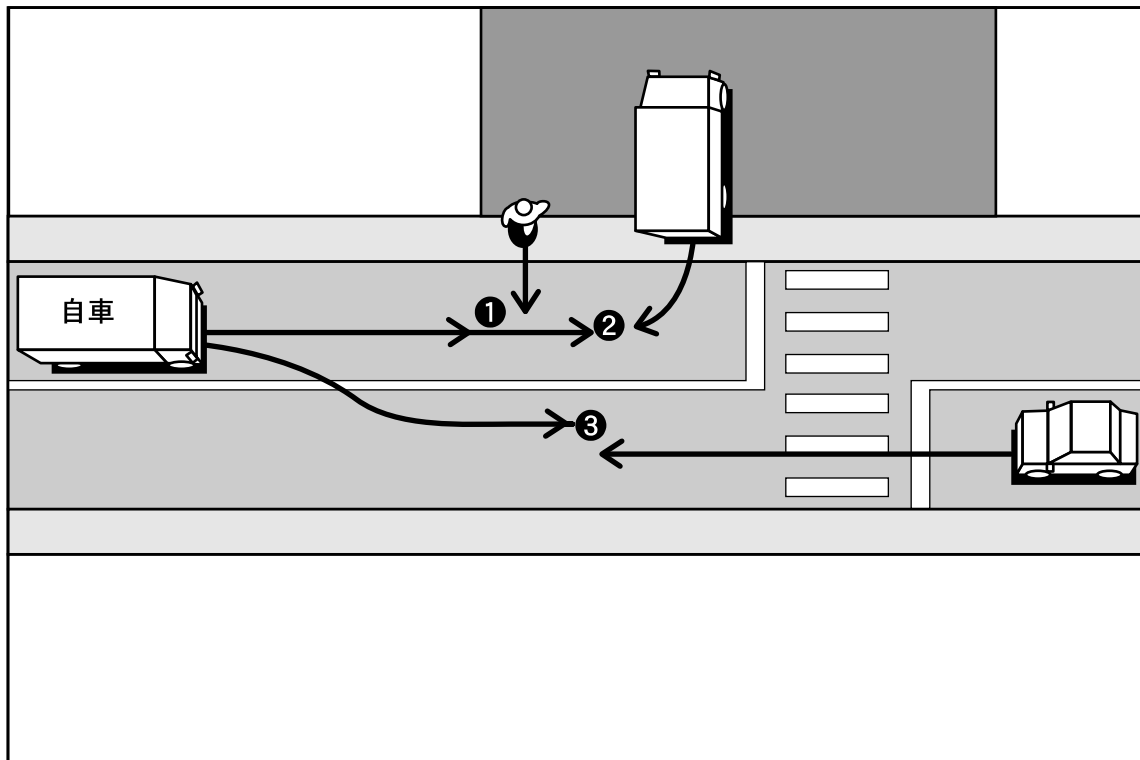
2. 安全運転の例

- ① 単路でも、いつ前車が進路変更などのために減速や停止をするかわからないので、常に車間距離を保持しておく。
- ② 進路変更するときは、必ず後続車の有無を確認するとともに、後続車があるときは、決して強引な進路変更はしない。

3. 乗務員指導のポイント

- ① 単路でも、進路変更などのために減速や停止などの変化があるので、油断は禁物で、常に周囲の状況に目を配る必要があることを認識させる。
- ② 特に前方に駐車車両のある場所では、車の流れに変化が起こりやすいので、前方や後方の状況に注意するよう指導する。
- ③ 進路変更するときは、必ず後方の確認をするとともに、自車は大型車だから相手が譲ってくれるだろうと考えて強引な進路変更することは絶対にしないよう指導する。

〔トラック 2〕 片側 1 車線の道路を走行



1. 主な危険要因の例

- ① 誘導している人が道路に出てきて、はねる危険がある。
- ② バックして道路に出ようとしているトラックと衝突する危険がある。
- ③ 衝突を避けようとして右側にふくらむと、センターラインをはみ出して対向車と衝突する危険がある。

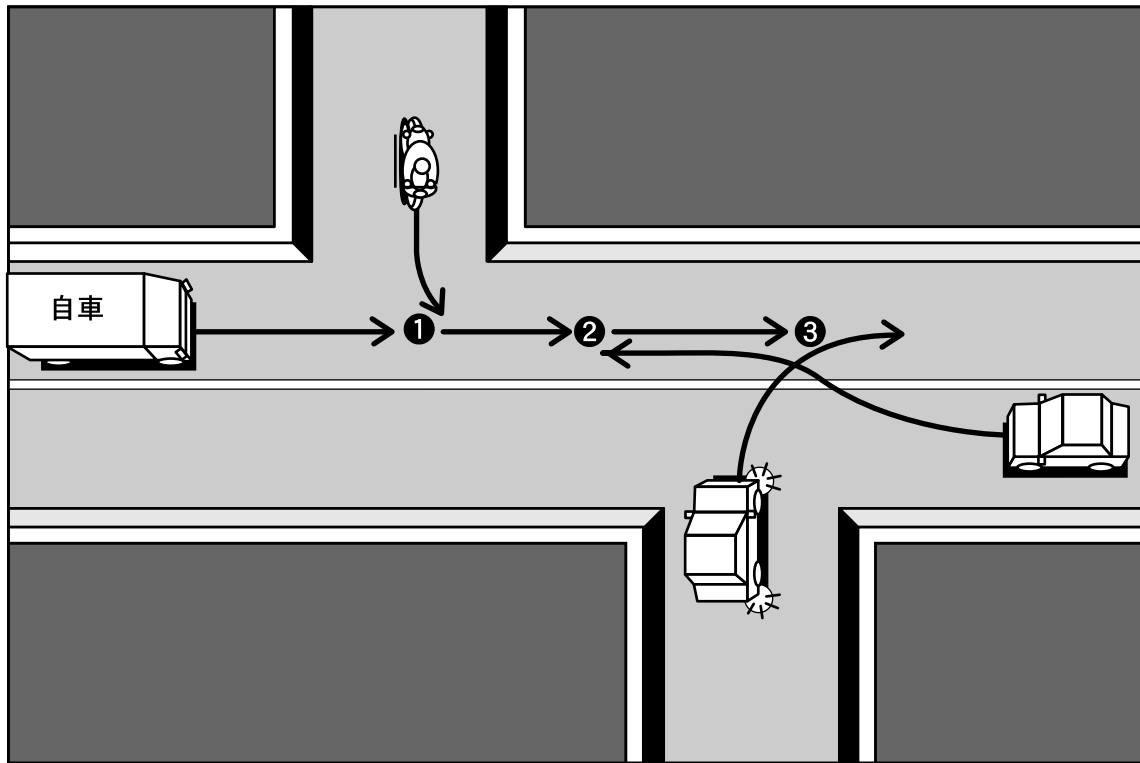
2. 安全運転の例

- ① 前方でトラックがバックして道路へ出ようとしているので、スピードを落としながら進行する。
- ② 誘導している人やトラックが道路に出てきたときは、一時停止して先に行かせるようにする。

3. 乗務員指導のポイント

- ① 車の誘導者は、常に他の交通に万全の注意を払っているとは限らず、車の接近に気付かずに道路に誘導することもあることを認識させ、誘導者がいるから車は道路には出てこないはずだと思い込まないように指導する。
- ② 車が道路へ出ようとしているときは、できるだけ徐行か一時停止をして、道を譲るよう指導する。

〔トラック 3〕 住宅街の走行



1. 主な危険要因の例

- ① 左側に脇道があり、そこから自転車等が飛び出してくると、衝突する危険がある。
- ② 右側の脇道から車が出ようとしており、これを避けるために対向車が右側にふくらんで、センターラインをはみ出すと衝突する危険がある。
- ③ 右側の脇道から車が出てくると、衝突する危険がある。

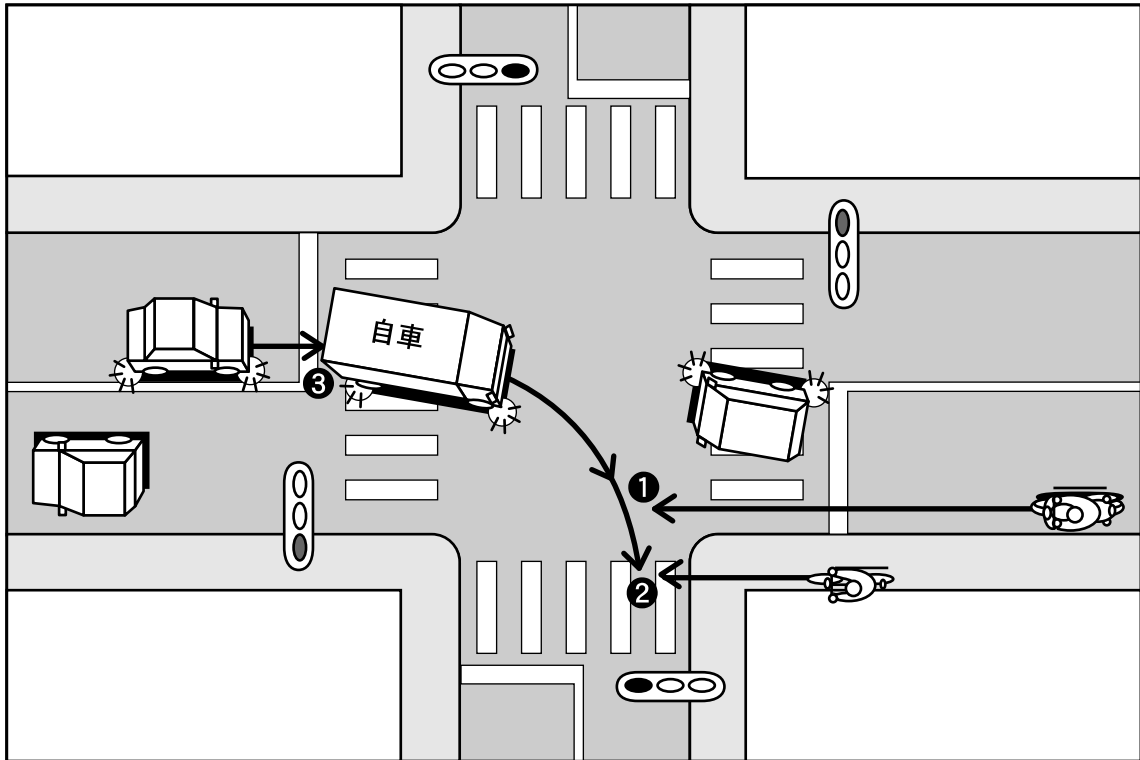
2. 安全運転の例

- ① 見通しの悪い場所に接近したら、十分にスピードを落とす。
- ② ややセンターライン側を走行し、左側から出てくるかもしれない自転車の早めの発見に努める。
- ③ 右側の脇道から出ようとしている車や対向車の動きに注意しながら、スピードは落としたままで走行し、右側の脇道の車が出てきたときは先に行かせる。

3. 乗務員指導のポイント

- ① 住宅街の見通しの悪い交差点などでは、自転車が飛び出してくることも多いので、その点をよく認識させるとともに、次のような自転車の行動特性について理解させる。
 - ・一時停止が必要な場所でも一時停止せずに飛び出してくる。
 - ・後方の確認もせず、合図もしないで急に進路変更してくる。
 - ・一方通行を逆行してくる。
- ② 脇道の多い住宅街を走行するときは、スピードを落とすとともに、脇道から車や自転車が出てこないかどうか十分に注意するよう指導する。

〔トラック 4〕 交差点の右折



1. 主な危険要因の例

- ① 対向右折車の向こうに二輪車のヘルメットが見えるので、このまま右折していくと、直進してくる二輪車と衝突する危険がある。
- ② 横断歩道に自転車が接近しており、このまま右折していくと、自転車と衝突する危険がある。
- ③ 急停止すると、後続車に追突される危険がある。

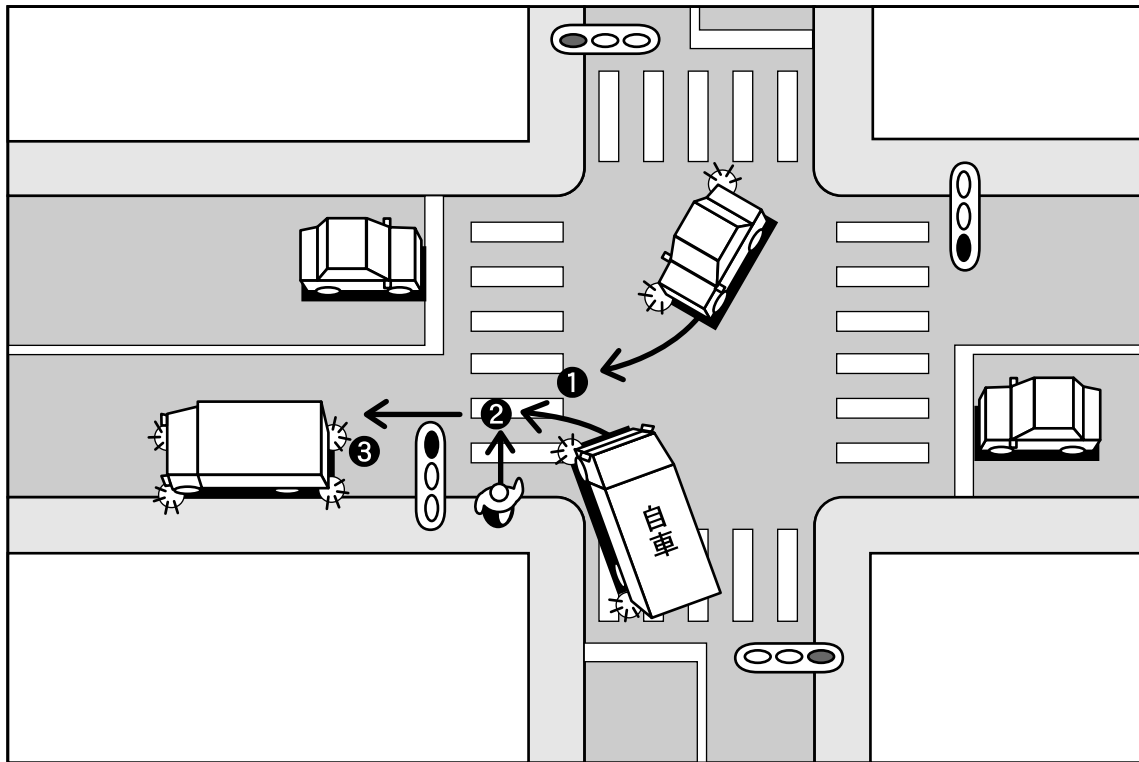
2. 安全運転の例

- ① 対向右折車のために対向車線の状況が確認しにくいときは、対向右折車の前
に出る手前で一時停止して、対向車線の状況を確認する。
- ② 対向車が接近しているときは、通過を待つ。
- ③ 右折していくときは横断歩道の状況によく目を配り、横断歩道の手前で停止
できる速度で徐行して進行する。

3. 乗務員指導のポイント

- ① 交差点の右折時は対向車との重大事故が発生しやすいので、次のような点を指導する。
 - ・スピードを落として交差点に進入する。
 - ・対向右折車により対向車線の状況が確認しにくいときは、対向右折車の前に出る手前で一時停止し、対向車線の状況を確認する。
 - ・対向直進車が通過直後に一気に右折をすると、対向直進車の後方から走行してくる車と衝突する危険があるので、対向直進車が通過後に必ず後方の状況を確認する。
- ② 横断歩道の状況にもよく目を配り、横断歩道の手前で停止できる速度で徐行して進行するよう指導する。

〔トラック 5〕 交差点の左折



1. 主な危険要因の例

- ① 対向右折車が右折をしてくると、接触する危険がある。
- ② 歩行者が横断歩道を渡ってくると、はねる危険がある。
- ③ 横断歩道の先の状況を確認しないまま進行すると、横断歩道の先の駐車車両に追突する危険がある。

2. 安全運転の例

- ① 交差点に接近したときはスピードを落とす。
- ② 横断歩道の歩行者等の動向や対向右折車の動向にもよく目を配る。
- ③ 左折するときは徐行で進行するとともに、横断歩道の先の状況にも目を配り、駐車車両の有無等を確認する。

3. 乗務員指導のポイント

- ① 交差点左折時の安全走行について、特に次の点を指導する。
 - ・ 交差点に接近したときはスピードを落とす。
 - ・ 前車に続いて左折するときは、前車との車間距離を十分とる。
 - ・ 左側方および左後方の状況（二輪車等の有無）を確認する。
 - ・ 前車や横断歩道の歩行者や自転車、対向右折車等の動向に注意する。
 - ・ 左折時は徐行で進行し、歩行者や自転車が横断しているときは、必ず一時停止して通過を待つ。
- ② 横断歩道の先の状況にも注意し、駐車車両の有無や横断歩道外を横断しようとしている歩行者の有無などを確認するよう指導する。